

## 投資信託のコスト②信託報酬



- 信託報酬は投資信託の保有期間中にかかるコストで、販売会社、委託会社、受託会社それぞれに支払われている
- 信託報酬は投資信託のパフォーマンスに関わらず必要な費用で、信託財産（ファンド）より日々、控除されており、基準価額は信託報酬控除後の数字となる
- 投資信託は、それ自体も、運用する委託会社も監査を受け、財務諸表等の情報が公表されており、透明性が高い金融商品といえる

### 投資信託の保有時にかかるコスト

今回は投資信託のコストのうち、保有期間中にかかるコストとして信託報酬についてご説明します。投資信託の運営にはお金がかかります。投資信託に関わる会社で主にかかる費用は下記の通りです。信託報酬は委託会社だけに支払われているわけではありません。

- 販売会社（投資信託を販売している会社）：  
購入後の情報提供、交付運用報告書等各種書類の送付、損益計算と税金の徴収代行、口座内でのファンドの管理および事務手続、購入・換金手続等の対価
- 委託会社（運用の指図を行う会社）：  
ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、純資産総額・基準価額の算出等の対価
- 受託会社（信託財産の保管および管理を行う会社）：  
ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価

信託報酬は年率で目論見書等に記載され、日々時価に対し1日分がファンドから差し引かれています。時価は毎日変動するうえ、いつでも購入・換金ができるオープン型ファンドでは毎日、設定・解約がありますので、事前に信託報酬額を表示することはできません。実際に信託報酬がどのくらいかかったかは運用報告書で把握することができます。つまり毎日算出されている基準価額は信託報酬が控除されています。

### 運用会社の費用

「パフォーマンスがマイナスなのに信託報酬が引かれるなんて納得できない。」、「成功報酬型でいいのでは?」、「運用会社はファンドのお金を流用しているのではないか?」等の思いや疑問を抱かれたことはないでしょうか。まず投資信託を運用している委託会社の収入源はほぼ信託報酬だけのため、そこから必要な費用はまかなわれます。委託会社が使う費用は投資信託のパフォーマンスに関わらず必要な費用です。

委託会社を投資信託の製造会社と考えると主に3つの部門に分けることができます。

- ①投資信託の製造・運営に関わる部門（運用、商品開発・管理、投信計理、ディスクロージャーなど）
- ②顧客対応部門（営業、マーケティングなど）
- ③管理部門（人事、財務、法務、ITなど）

例えば、①は運用やそれに伴う調査の費用、②投資信託（商品）の販売会社への提案、広告物等の作成、③は人事やIT等に関する費用です。①は運用会社ならではの費用ですが、②と③は一般的な事業会社と同様ですので、理解しやすいと思います。費用の項目で見ると、人件費、交通費、通信費、印刷費、広告宣伝費等、です。

運用会社を例にご説明しましたが、信託報酬はファンドのパフォーマンスに関わらず投資信託の運用・管理を続けていく限り必要な費用です。また投資信託は、それ自体も、運用する委託会社を始め関連する会社も監査を受け、財務諸表等の情報が公表されています。このため投資信託は透明性が高い金融商品ともいえます。

#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。

# 「投信新世代」のための基礎知識

## 「iInfo」はピクテのインターネット専用「iTrust」シリーズの 受益者のみなさまにご提供する**会員限定サービス**です。

ピクテのiInfoには投資家のみなさまの、  
**「プロ並みのファンドや市場環境の情報がほしい」**  
**「投資に役立つ知識を自分のペースで学びたい」**  
 …というご要望を満たす様々な情報をご用意しております。

具体的には、iTrustシリーズのバリュエーションレポートやピクテの短期・長期の投資環境見通しを紹介した戦略レポート「Barometer」  
 「Secular Outlook」、投資の基本をやさしく学べる「BASE VIDEO & TEXT」、コラム「投信新世代のための基礎知識」など、様々なコンテンツが用意されています。

### iInfo詳細はこちら

<https://www.pictet.co.jp/itrust/iinfo>



iInfo

(「iInfo」で検索してください)



### iInfo by Pictet Facebookページのご紹介

iInfoのFacebookページができました！  
 ここでは、私たちが日々取り組んでいることや、  
 みなさまのお役に立てそうなことなど、  
 様々な情報をお届けしてまいります。

iInfo by Pictet Facebookページ

<https://m.facebook.com/iinfo.pictet.jp/>



iInfo

(Facebookで「iInfo」  
と検索してください)



#### 当資料をご利用にあたっての注意事項等

- 当資料はピクテ投信投資顧問株式会社が作成した資料であり、特定の商品の勧誘や売買の推奨等を目的としたものではなく、また特定の銘柄および市場の推奨やその価格動向を示唆するものでもありません。
- 運用による損益は、すべて投資者の皆さまに帰属します。
- 当資料に記載された過去の実績は、将来の成果等を示唆あるいは保証するものではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報に基づき作成されていますが、その正確性、完全性、使用目的への適合性を保証するものではありません。
- 当資料中に示された情報等は、作成日現在のものであり、事前の連絡なしに変更されることがあります。
- 投資信託は預金等ではなく元本および利回りの保証はありません。
- 投資信託は、預金や保険契約と異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。
- 登録金融機関でご購入いただいた投資信託は、投資者保護基金の対象とはなりません。
- 当資料に掲載されているいかなる情報も、法務、会計、税務、経営、投資その他に係る助言を構成するものではありません。